

教授

金山正子

## ■ 学歴

---

1. 1997年 山口大学大学院経済学研究科修士課程修了

## ■ 学位

---

1. 1997年 修士(経済学)

## ■ 研究分野

---

1. 基礎看護学
2. 看護教育
- 3.

## ■ 研究キーワード

---

1. 看護教育
2. 看護倫理
3. 看護学生

## ■ 研究課題

---

1. 看護学生の看護倫理に対する意識についての教育効果に関する研究
- 2.

## ■ 担当授業科目

---

1. 看護学概論 (前期) (看護学科) 必修
2. 看護倫理 (後期) (看護学科) 必修
3. 看護技術論演習 (前期) (看護学科) 必修
4. 生活援助技術論演習 (後期) (看護学科) 必修
5. 診療関連技術論演習 (前期) (看護学科) 必修
6. ヘルスアセスメント演習 (後期) (看護学科) 必修
7. 看護過程論 (前期) (看護学科) 必修
8. 看護理論 (前期) (看護学科) 選択
9. 看護キャリア形成論 (前期) (看護学科) 必修
10. 看護学特論 (後期) (看護学科) 選択
11. 基礎看護学実習 I
12. 基礎看護学実習 II (前期) (看護学科) 必修
13. 看護総合演習 (前期) (看護学科) 必修
14. 看護総合実習 (前期) (看護学科) 必修

## ■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	<b>授業科目名【看護学概論】</b> 入学してすぐに学ぶ基礎看護学の科目であり、主体的な学習態度と、看護観を修得する方法として、看護概念の学習では、学生が事前課題レポートを作成し、講義で意見交換や発表をするグループ学習を導入した。また、看護専門用語や看護関係の法律等についてわかりやすく理解できるように、教科書・配布資料により、学生の理解が進むように努めた。さらに、最新の看護の動向を講義内容に含めるように努めた。
2.	<b>授業科目名【看護倫理】</b> 2年次の学生に対して、看護倫理の基礎的知識の修得と臨床の看護現場で起こりうる倫理的課題と対応について考えるため、グループ学習による事例検討をとおして、看護倫理の考え方を相互に学び、理解できるように努めた。
3.	<b>授業科目名【看護キャリア形成論】</b> 2年次の学生に対して、看護専門職として、将来のキャリアプラン、ライフプランを考え、卒業までの学習や卒業後の進路を考える機会とした。第一回目に学生が受けた就職課実施のSPI性格検査の結果を基に、学生自身の強みと弱みを自己分析し、自己理解の一助とした。次に、働き方改革やワーク・ライフ・バランスについて課題レポートを提示し、将来の働き方を考える資料とした。また、看護専門職の先輩3人(①認定看護管理者(サードレベル)、看護部長の経験者、②精神科専門看護師の経験を持つ看護教員、③開業助産師)より、「看護キャリア形成の実際」の講演を導入し、学生が先輩から学びキャリアについて考える機会となった。
4.	<b>授業科目名【看護理論】</b> 看護理論のテキストにそって、主要な看護理論家の看護理論の特徴と看護実践への活用について概説し、課題レポートで理論の特徴と活用について考える機会を作った。
5.	<b>授業科目名【看護過程論】</b> グループ学習への指導では、学生の学習内容を把握し、事例患者の理解や情報整理、アセスメント、全体像の把握、問題の抽出、計画立案などのプロセスに従って、助言や指導、提出物へのコメントなどを行い、学生の個別性に応じた指導を工夫した。
6.	<b>授業科目名【看護技術論演習】</b> コミュニケーションと記録・報告の講義では、DVDや教科書と資料を活用して、視聴覚をとおして理解がすすむようにした。また、ベッドメイキングやシーツ交換の看護技術の演習においては、学生が技術を修得する様に助言、指導した。
7.	<b>授業科目名【生活援助技術論演習】</b> 看護技術の演習では、手順だけでなく、根拠を考えること、患者への安全、安楽、自立に十分配慮することや、対象への愛護的なかかわり、声掛け、説明の方法やプライバシーへの配慮など、看護の基本技術に必要な助言・指導を行うように工夫した。
8.	<b>授業科目名【ヘルスアセスメント演習】</b>

	看護技術の演習では、手順だけでなく、根拠を考えると、患者への安全、安楽、自立に十分配慮することや、対象への愛護的なかわり、声掛け、説明の方法やプライバシーへの配慮など、看護の基本技術に必要な助言・指導を行うように工夫した。
9.	<p>授業科目名【診療関連技術論演習】</p> <p>診療関連の看護技術の演習については、手順だけでなく、根拠を考えると、患者への安全、安楽、自立に十分配慮することや、対象への愛護的なかわり、声掛け、説明の方法やプライバシーへの配慮など、看護の基本技術に必要な助言・指導を行うように工夫した。</p>
10.	<p>授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ】</p> <p>1年次生2月の1週間の実習である。事前に病院と調整し、感染予防策を厳重に行い、学生が受持ち患者の看護について見学・実施を行い、電子カルテを参照することができるように配慮した。また、学生の情報収集やコミュニケーションの取り方、実習記録の作成などについて、助言や指導を行った。</p>
11.	<p>授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】</p> <p>事前に病院と調整し、感染予防策を厳重に行い、学生のグループを調整して実習した。電子カルテと観察から受持ち患者の情報収集と整理、アセスメント、全体像の把握、問題の抽出、計画立案、実施、評価のプロセスに従って、思考過程を学ぶ実習が円滑に進むように工夫し、助言・指導を行った。</p>
12.	<p>授業科目名【看護総合演習】</p> <p>看護総合実習前の4月から8月までは、テーマの設定と設定理由についてレポートを作成し、実習計画を作成した。また、実習室では、シミュレータのフィジカルアセスメントモデル人形やシナリオを使用して、観察技術を修得できるように練習し、助言・指導を行った。実習後は、実習体験後の学びを発表する機会を持ち、また、テーマにそって実習体験を基にレポートを作成することについて、助言・指導を行った。</p>
13.	<p>授業科目名【看護総合実習】</p> <p>事前に病院と調整し、感染予防対策を厳重にして病院で実習した。4年生であり、主体的に既習の看護の専門知識・技術を活用して、受持ち患者の看護を実践し、さらにチームリーダーや看護チームのシャドー実習、多職種連携やカンファレンスなどの実際から、看護師の役割について学び、看護観を形成することができるように、助言・指導を行った。</p>
14.	<p>授業科目名【看護学特論】</p> <p>「看護実践と倫理」のテーマで、基礎的知識と最新の看護の動向(看護職の倫理綱領など)を取り入れて、講義を行った。また、事例を提供して倫理の視点から倫理的課題と対応について考える機会を持った。講義の終わりにミニテストを行い、国家試験の出題問題を意識して、知識の確認を行った。</p>

## ■ 学会における活動

加入時期	所属学会等の名称	役職名等(任期)
------	----------	----------

1.	1990年4月～現在に至る	日本看護研究学会	
2.	1990年4月～2012年、2014年4月～現在に至る	日本看護科学学会	
3.			

## ■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
<b>（著書）</b>					
1.					
2.					
3.					
<b>（学術論文）</b>					
1.					
2.					
3.					
<b>（翻訳）</b>					
1.					
2.					
3.					
<b>（学会発表）</b>					
1.					
2.					
3.					

## ■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

<b>（1） 共同研究</b>				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外 者	交付決定額 （単位：円）
1.				
2.				
3.				

<b>（2） 個人研究</b>				
	研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
1.				

2.				
3.				

## ■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023年4月～現在に至る	日本私立看護系大学協会	正会員
2.	2023年 (ファーストレベル) 7月 (セカンドレベル) 9月	西南女学院大学看護キャリア支援センター 認定看護管理者教育課程	講師
3.			

## ■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2023年4月～2024年3月	就職委員会	委員
2.	2023年4月～2024年3月	看護学科教務係	教務係
3.	2023年4月～2024年3月	看護学科2年生アドバイザー、 4年生アドバイザー	看護学科2年生アドバイザー長
4.	2023年4月～2024年3月	看護学科共用試験導入対策係	共用試験導入対策係
5.	2023年4月	その他:【文科省】「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業(メニュー2A)実習等に資するシミュレータ等のDX設備整備」(9,592千円)に関するシミュレータ等の設備整備と活用	2022年度実績報告書の提出